越中國立山

〔今昔物語十四〕修行僧至二越中國立山一會二小女一語第七

今昔、越中ノ國□□ノ郡ニ、立山ト云フ所有リ、昔ヨリ彼ノ山ニ地獄有ト云ヒ傳ヘタリ、其ノ所ノ樣ハ、原ノ遙ニ廣キ野山也、其ノ谷ニ百千ノ出湯有リ、深キ穴ノ中ヨリ涌出ヅ、巖ヲ以テ穴ヲ覆ヘルニ、湯荒ク涌テ、巖ノ邊ヨリ涌出ルニ、大ナル巖動ク、勢氣滿テ人近付キ見ルニ極メテ恐シ、亦其ノ原ノ奥ノ方ニ、大ナル火ノ柱有リ、常ニ燒ケテ燃ユ、亦其ノ所ニ大ナル峯有リ、帝釋ノ嶽ト名付タリ、此レ天帝釋冥官ノ集會ヒ給テ、衆生ノ善惡ノ業ヲ勘ヘ定ムル所也ト云ヘリ、其ノ地獄ノ原ノ谷ニ大ナル瀧有リ、高サ十餘丈也、此レヲ勝妙ノ瀧ト名付タリ、白キ布ヲ張ルニ似タリ、而ルニ昔ヨリ傳ヘ云フ樣、日本國ノ人罪ヲ造テ、多ク此ノ立山ノ地獄ニ墮ツト云ヘリ、

豐後國鶴見山

〔廻國雜記〕かくて立山に禪定し侍りけるに、先三途川に到りて思ひつゞけける、

此身にて渡るも嬉しみつせ川さりとも後の世には沈まじ、翌日下山のついでに、もろ〳〵の地獄を廻りけるに、熱湯の體、火炎など取々に淺ましかりければ、

しでの山其しなゝ〳〵や湧かへる湯玉に罪の數をみすらん、禪定する〳〵ととけて下向し侍る道にて、

都をばとをくこしぢにかへる山ありとなぐさむ旅の空哉

由布山

〔豐後國志三速見郡〕鶴見山　在二朝見鄉鶴見村一、菲巍嶙峋、東方崛峙、西對二由布一、秀拔不二相讓一、兩山接踞之處曰二迫途一、由布西北茂林中、自二十月一至二二三月一、群鶴集栖數百、遠望之、則白日翱翔如二飛雪一、或名取レ之、山上有二神祠及三池一、法于神祠下、故祠之址、老杉數株、凌レ霄矗立、其前山有二巨石一、大九尺計、名二躍石一、其躍上數十丈、聲聞二一里餘一、相謂爲二風雨之兆一、蓋零陵石燕之類也、多產二硫黃礬石一、山常有レ火、自レ古山崩泉溢之災、往々國史所レ紀、注二于祥異之下一、

〔遊囊膳記十二〕由布山ハ、俗ニ湯ノ嶽トイフ、其高サ三里許、絶頂東西ノ兩嶽向ヒ合テ、其間ニ幾千